

親友を亡くして



新潟教区 丸山 文雄 仏教壮年会連盟講師

私には、龍口了潤君という若いころからの友がいました。2022年3月のこと、電話の向こうで彼が「患っているガンが再発し、抗がん剤治療を再開、食欲がない」と話すのです。居ても立ってもおれなくなり、「新潟の美味しい米を持っていくから待っててくれ」と伝え、片道900キロを坊守と交代で車を運転し、彼がいる広島に向かいました。彼のお寺が近づくにつれ、「門信徒葬」の張り紙が目に入ってくるのです。まさか間に合わなかったのか……。3月16日は友の^{ふ ほう}布袍と輪袈裟を借りて、お通夜のお勤めとなってしまいました。

親鸞聖人のご和讃に「他力の信心をいただいた人は、名号のいわれを聞き拓き、仏法を敬い、み教えをよろこぶ者をお釈迦様は私の本当の親友であると褒め讃えた。」（注釈版聖典610ページ）とあります。これは、『仏説無量寿経』の「法を聞きてよく忘れず、見て敬い得て大きに慶ばば、すなわちわが善き^{しん ぬ}親友なり」（注釈版聖典47ページ）のご文をいただかれてのご和讃です。み教えをいただいてよろこぶ者となり、お浄土から私たちに働き続ける「われにまかせよ そのまま救う」のよび声である「ナンマンダブ」を親友のお通夜で称えるとき、「善い友になれたよな、有り難いね」と友の声が聞こえてくる正信偈のお勤め

でした。

2023年真宗教団連合法話カレンダーの1月の言葉は、恩師であり元龍谷大学学長の信楽峻麿先生の「この世のことは何事も何事もお念仏の助縁」です。

人生におけるよろこびも悲しみも、すべてお念仏につながる尊いご縁であるといいただきます。大切な親友との別れは、本当に辛く悲しいものです。この辛く悲しいご縁も、今、私の口を通して「ナンマンダブ」と声の仏となって現れてくださるのです。

別れは辛いけれど「ナンマンダブ、おかげさまでありがとう」と称えさせていただく親友とのご法縁でした。

称名念仏

.....